

## 2. 平成19年能登半島地震の現地調査

小池則満

### 1. 概要

平成19年3月25日に発生した能登半島地震の現地調査を、平成19年4月8日におこなったので、その概要を報告する。対象は、主に輪島市内である。被災後、2週間経過していたことから、JR七尾線およびのと鉄道は普及しており、穴水町より輪島市内に至るバス路線も定刻通りに運行していた。交通機関、道路、ともに混雑をしていることもなく、スムーズに移動することができた。

### 2. 被災状況

被害が集中しているのは輪島市内のうち鳳至町、河井町であった。木造家屋の被害が中心である一方(写真1)、ほとんど被害をうけていない家屋も多かった。橋梁等は、橋台と道路に段差が生じている箇所は多々あったが、落橋は見受けられなかったほか、免震ゴムの残留変位(写真2)をみることもできた。石構造物の被害は大きく、鳳至町の住吉神社においては、ほとんどすべての石灯籠等が倒壊していた(写真3)。印象的であったのは、風評被害を恐れる住民の声である。本来なら朝市が開かれているメインストリートには、被災から2週間たっても観光客の姿がほとんどなく、営業中の飲食店や土産物店も、閑古鳥が鳴いている状態であった(写真4)。



写真1 家屋被害と撤去状況



写真2 煌めき橋の免震ゴム



写真3 住吉神社の被害



写真4 朝市通りの様子

### 3. 考察

ハード面では阪神・淡路大震災以来の対策が功を奏している部分も多くあると思われる、今後、詳細な検証作業が必要と考える。また、風評被害など、これまで大きく取り扱われていなかった被害についても目を向ける必要がある。